



森下 義昭 議員 … 1 件の一般質問

温泉施設利用の確立対策

町長：当該事業者の実情を把握し、対応を検討する

森下

町内の公衆浴場が平成26年に廃業され、その後は浴場がない家庭では、文化福祉センターのデイサービス使用の浴場にて共用で利用している現状である。

また、ホテルようてい温泉を公衆浴場のように、毎日多くの町民や外国人たちも利用している。

そのような中でこの度、ホテルようてい温泉の入浴回数券に使用期限が表示されたことにより、一時期いろいろな噂が流れ、「一般客が利用できなくなるのでは」と多くの人たちが心配したことは事実である。町民からは、「町で温泉確保を何とか考え、町民の癒しの場を作って欲しい。例えば、ホームマック跡地に以前、温泉が出ていたという事に合わせ、道の駅複合施設建設実現を図るべきではないのか」との声が非常に多く上がった。

しかし、今は町も大型の建物を建設している関係上、非常に難しいと考えている。従って、一番近いホテルようてい温泉があるので、町の事情を

率直に相手方に話をして、町民が容易で安心して利用できる状況を生み出すことが大切だと考えている。

ホテルようてい温泉が、安心して利用できる状態が確保できたら、町民の癒しの場となり、老若男女問わず、絆の充実と町の活性化につながると思う。幸いに現在、じゃがりん号が玄関前までの経路になっている。温泉利用者増加に伴い、じゃがりん号も多くの方の利用が見込まれると考える。さらに、町が一部助成し町民利用者の入浴料金が安価になるよう近隣の町営温泉の料金体系等を確認し、温泉利用の確立を図るための対策を伺う。

町長

公衆浴場、なかで料金統制を受ける銭湯については、平成26年9月末に唯一の銭湯が廃業となった後、自宅にお風呂がない皆さんの入浴場所を確保し、公衆衛生の維持向上の一助とするのを目的として、同年10月から倶知安町老人デイサービスセンター

の浴場を利用し、入浴機会の確保を図っている。

一方、ホテルようてい温泉は、市街地から一番近い温泉施設であることから、観光客はもとより町民の皆さまの利用も多く、本町のいわゆる銭湯的な役割を果たしていることはご指摘の通りだと理解している。温泉施設を利用する家庭がある中で、まず、優先して検討する必要があるので、自宅にお風呂がない家庭における入浴機会の確保対策だと考えている。

現在のデイサービスセンター浴場における入浴機会確保対策については恒久的なものとは考えていない。代替の施設が必要ならば、当然、市街地から最も近い施設を念頭に置いた検討となり、利用実態を十分調査し、現行と代替、またはサブ的機能とした場合の費用面の比較等を検討する中で判断したいと考えている。

森下 町民が一番望んでいることは、やはり料金関連が非常に多いと思われる。是非、近傍の状況を把握し、検討してほしい。料金の一部助成により町民が安易に利用できる、たくさんの方の絆を築ける癒しの場となれば、他町村の温泉施設の利用をしている方も、地元の温泉施設を利用すると思う。今一度、町長の見解を伺う。

町長

近隣町村は、町営の施設であることから非常に安くしている。ホテルようてい温泉は、民間の施設であり、料金を安くするための補助支援とはちよつと趣旨が違いますが、基本的には今、公衆浴場の確保の観点でまず、お風呂のない方をどうするかということについて、しっかりと対策をしていかなければならないと思っている。

近場にあるホテルようてい温泉をサブ的機能として使うことは非常に望ましいので、もう少し検討して、前向きな対応をしていきたいと思っ

る。また、それ以外にも一般町民の利用を高めるための安易で安心して使える施設として何らかの支援をすれば、一回当たりの料金も安くなるのではないかと考える。

しかし、町内には他の民間のホテル・温泉施設もあるので、十分加味しながら内部で検討していきたいと思う。

森下

市街地に近く、利用しやすいこと、町民の癒しの場となりゆっくりできる場所にした方が町民のためだと思う。ある程度のサービス的な補助が必要だとも思うので、よろしくお願

町長

町内には、7施設ほど日帰りの施設があるので、十分いろいろな角度から検討していきたい。